

- 1、本日は、宮崎産業経営大学入学式の挙行にあたり、ご来賓の皆さま、ご父母の皆さまのご来臨をたまり、心から、御礼を申し上げます。
- 2、入学を許可された、法学部114、経営学部138名の若人の諸君、ご入学おめでとうございます。私たち産経大の教職員一同は、このキャンパスに諸君をお迎えしたことを、喜びとともに心からの歓迎の意を表します。
- 3、本日の入学者の中には、日本一を達成した鵬翔高校（同じ学園の姉妹校）鵬翔のサッカー部の諸君も数多く入学してくれております。新入生の諸君は、勿論、ご承知のことと思いますが、今年の一月に開催された第91回全国高校サッカー選手権大会において、4175校の頂点に立ち、「日本一」になったのです。日本一をめざし、日本一を実現したことは、素晴らしいことであり、その立役者を本学キャンパスに迎えたこの機会に、私は、「新入生の皆さんお一人お一人が一番を目指す目標」をたてることを提案したいと思います。大きな気持ち、気宇壮大な気持ちで、「一番を目指していく」のです。「一番運動」であります。今の日本は、「一番でなくてもいい、二番三番で上等だ。何事もほどほどでいい」という元気がない雰囲気が充満しております。
- 4、しかし、「二番は負け組の代表でしかない。」という言葉があります。英語で言いますと「second place is the first loser」といって、聖書にも載っているほどです。今の日本が元気を取り戻すには、若い諸君の「一番を目指す気宇壮大な心意気」が必要なのです。一番を目指す目標は何もサッカーの分野だけではありません。学問の分野でもサークル活動の分野でも、身近な生活の分野でも、どんな分野でもいいのです。自分はこの分野で一番になろうと目標を定めて、四年間の大学生活のなかで、根気よく、粘り強く追い求めていくのです。例えば、この科目で一番、あるいは、このゼミで一番、このサークルで一番、マネージャーとして一番、コンパの幹事役として一番という具合にです。産経大の学生は、明るい挨拶が交わされていると、部外者から高い評価を受けていますが、「人を明るい気持ちにさせる元気の挨拶の分野」で一番をめざしてもいいのです。一番になろうという目標を立てて、「念ずれば花開く」気持ちで、4年間の学生生活で継続していけば、「継続は力なり」で、必ず身に付くものができる、一生の財産になることでしょう。
- 5、どうしても、目標分野が定まらない学生諸君は、産経大の教育方針とともに、進んでください。産経大は、3つの「日本一」の目標を立てています。一つ目の目標は「日本一就職に強い大学」であります。昨年の就職率は、経営学部は九州一位、法学部は九州二位でありましたので、日本一の目標に近づいております。今年の卒業生の就職率についても、96.7%という高い率をキープしております。高い就職率の背景には、厳しい就職氷河期の中でも、決してあきらめないで食いついていく産経大生の伝統的精神があるのです。例えば、先月19日の卒業式の後も、就職活動を継続し、念願のテレビ局に決まった女子学生もいます。この粘りの伝統は、鵬翔高校サッカー部の「最後まであきらめない不屈の精神」と相通じるものがあります。

二つ目の目標は「日本一のキャリア教育をめざす」ということです。産経大は10年前から、全国の大学に先駆けて、キャリア教育に取り組んできました。皆さんの先輩は、がんばってくれまして、今年の卒業生をみても、公務員試験や公務員に準じる筆記試験の合格者は、86名にのぼりました。卒業生総数は227名でしたので2人に1人に近い率で合格したことになり、産経大生の学力の高さを世間に証明し、学長として、嬉しい限りでありました。

三つ目の目標は、「日本一面倒見の良い大学」であります。産経大は、建学の精神である「師弟同行」を実践しております。後ほどのオリエンテーションで説明しますが、Cナビ（進路研究演習）、専門ゼミ、多くの学内塾、Wスクールなどが充実しており、学生と教員が一緒になってがんばっています。この点は、第三者の評価をみても、産経大では学生と教員との距離感がないと、すでに高い評価を獲得しています。

- 6、ここで、若干の紹介をさせていただきます。新入生の皆さんは、このキャンパスに入って、「荒海を乗り切っていく船のポスター」に気がつかれたのではないかと思います。これは、私が、新入生をお迎えするにあたり、間に合うように1週間前に、紀伊国屋書店から発行した私の本です。題名は、まさに「気宇壮大に進化の先頭に立つ」であります。大きな気持ち、大きな志をもって、人生の荒波に立ち向かって欲しいという気持ちで書き上げました。産経大の学生、卒業生、教員からの意見も掲載しております。図書館に置いてありますので、1度、目を通して頂ければと思います。
- 7、ところで、産経大は、創立26年になり、九州・沖縄では、今や、社会科学系大学として屈指の存在であり、力強く情報発信をしております。先輩の卒業生をみると、その数は9千4百人にのぼります。大多数は、民間企業で活躍しており、例えば銀行では、支店長が誕生しております。また、公務員では300人以上、教員では100名以上が九州を中心に活躍しております。まさに、産経大のキャリア教育が実を結び、卒業生は、社会の第一線に立って社会を支える立場に立っているのです。
- 8、最後に、産経大は、皆さんの長い人生の中での「ベースキャンプ」に位置するという事を申し上げます。産経大という「人生のベースキャンプ」において、学生諸君は、青春のエネルギーを熱く「燃焼」させることと、頭を冷やして学問に励み「充電」することを繰り返していくのです。産経大のキャンパス・ライフの中で、「燃焼と充電」を繰り返すことによって、皆さんお一人お一人、必ずや、人生の荒波を乗り切っていく「ちから」を身につけていかれることを期待し、私の歓迎の言葉といたします。本日はおめでとうございます。ともにがんばっていきましょう。